

# 田岡俊次の 国際情勢の 行間を抉る ⑨



## 威嚇が効かないと攻撃しかない トランプは拳を振り下ろすか

米原子力空母「カール・ヴィンソン」(9万3000トン、約60機搭載)は4月23日からフィリピン東方海域で海上自衛隊の護衛艦「あしがら」(1万1600トン)、同「さみだれ」(6300トン)と共同訓練を行なった後、日本海に入った。また、25日には戦略弾道ミサイル原潜を改造し「トマホーク」巡航ミサイル154発を搭載できる「ミシガン」(1万9000トン)が釜山に入港した。

韓国を訪問したペンス米副大統領は4月17日の記者会見で、「北朝鮮は(トランプ)大統領の決意や米軍の力を試すようなことはしない方がよい」と述べて攻撃能力を誇示し、北朝鮮に核放棄を迫っている。一方、北朝鮮は4月16日、日本海岸の新浦から弾道ミサイル発射実験を行ない、これは失敗したものの、25日には元山付近で多数のロケット砲、長距離砲射撃訓練を行ない、ソウルを火の海にする戦力を誇示、ついに「チキンゲーム」の悪循環が始まった。

先月号の本欄で田岡氏は「米軍が北朝鮮を攻撃すれば1953年以来休戦状態の朝鮮戦争の再開と

なり、南北双方が共倒れになる程の被害が出かねない。米軍も軽々に攻撃はできない」と説明された。だが威嚇合戦がエスカレートすれば、抜き差しならない状況になったり、不測の事態が起こり、日本も巻き添えになったりする可能性を案じる声を聞く。その点を改めて尋ねてみた。

**威嚇が効かず武力侵攻せざるを得なくなった中国の失敗**

Q…前号では、米軍は1994年に北朝鮮の原子炉などを航空攻撃しようとした。だが在韓米軍は、朝鮮戦争が再燃すれば、ソウルは猛砲撃を受け、米軍に90日間に5・2万人、韓国軍に49万人の死傷者が出て、民間人の死者100万人以上、との損害見積を出し、米政府は攻撃を諦めた、とのお話を伺った。北朝鮮が核・ミサイルを持つ今日では、北朝鮮攻撃は一層困難、危険になった、との説はこもともだが、現実にはトランプ政権は北朝鮮を威嚇して核廃棄をさせようとしている。相手がそれに応じず、反抗姿勢を強めれば、挙げた拳を振り下ろすしかない状況になる心

配はありませんか。

田岡…そのとおりです。前回は日本、韓国、メディアが今にも米軍が攻撃するようなデマを流していたから、

「そんなに簡単にはやれない」と説明したが、威嚇戦略には相手が折れてくれないと、武力行使せざるを得なくなる、という問題がある。

典型的な例は1979年2月の中国のベトナム侵攻です。カンボジアのポル・ポト政権は知識層、都市住民



1962年のキューバ危機で、ソ連の貨物船を警戒する米軍の哨戒機

を強制労働に駆り立て、170万人、人口の24%が死亡した。その多くはベトナム系住民だったから、ベトナムはカンボジアの反乱軍を助けてカンボジアに出兵した。当時ベトナムはソ連から経済援助を受け、見返りにカムラン湾の基地を貸すなどソ連寄りです、これに対し中国と米国はポル・ポトを支持していた。

中国はベトナム国境に20数個師団、約40万人の大軍を展開し、ベトナムを威嚇した。ベトナムが中国の侵攻に備えてカンボジアから兵力を引き、中越国境に再展開することを狙った。だが戦争に慣れたベトナムは動じず、中国に対する防備は正規軍3個師団（約3万人）と地方軍（予備役民兵）約7万人に任せ、カンボジア平定を進めた。

威嚇を無視された中国は挙げた拳を振り下ろさざるを得なくなり、鄧小平副総理が訪米して協議の後、中国軍は国境全域でベトナムに侵攻した。ベトナムは米国との戦争終了6年後、南北統一から3年後だから、米軍との9年間の激戦で勝った歴戦の兵士は退役して予備役の民兵となっていた。

ベトナム戦争で使い残したり、南ベ

トナム軍から接收したりした武器、弾薬が大量にあったから、ベトナムの地方軍は史上最強の民兵集団で、新兵の多い正規軍より精鋭でした。

中国軍は人海戦術で約30kmベトナム領内に侵攻し、2週間後にランソンの町などを占領してやっと面子を保ったものの、ベトナム軍の火力と巧みな後退戦術にかかって大損害を受けており、「長居は禁物」と翌日撤退を開始した。中国軍はこの苦い経験から近代化に取り組むことになりました。

### 大物政治家同士の裏取引で核戦争を寸前で回避の米ソ

Q…威嚇とか「牽制」が効いて、戦争にならずに相手が屈した例はありませんか。

田岡…よく言われる例は1962年のキューバ・ミサイル危機です。キューバは1961年CIA（米中央情報局）が組織したキューバからの亡命物1700人の部隊がビッグス湾に上陸したのを迎え撃ち全滅させた。大恥をかいた米国は正規軍によるキューバ制圧を企図したから、カストロ首相はソ連に救援を求めた。ソ連はこれ幸いとキューバに中距離ミサイル

SS-4を配備、米国東部を狙う核抑止力にしようとした。これに対し米国は軍艦183隻でキューバを封鎖、日本を含む世界各地の米軍は、核戦争に備えて最高レベルの待機態勢に入りました。

ミサイルや関連機器を詰んだ25隻のソ連貨物船団が封鎖線に接近、それを守っていたソ連潜水艦に対し、米駆逐艦が威嚇のため爆雷を投下したから、潜水艦長は「戦争が始まった」と判断し、米駆逐艦に反撃するため核魚雷の発射準備を命じた。幸い潜水艦に乗っていたソ連海軍参謀中佐が「少し様子を見よう」と艦長に進言し、その後爆雷投下は続かなかつたから核魚雷発射は取り止めた。世界が核戦争になる寸前の危ういところでした。

その一方で米ソは裏交渉を行なった結果、ソ連貨物船団は封鎖線で反転、核戦争の危機は去り、ソ連のフルシチョフ首相はすでにキューバに到着していた弾道ミサイルの撤去にも同意しました。米国では「ケネディ大統領の核戦争も辞さない決然たる姿勢にソ連が屈服した」と称賛され、トランプ氏もそれを再現したいのかもれません。



1979年の中越戦争では中国側が大損害を被った

のか心配です。

好戦的になりかねないシビリアン・コントロールの怖さ

Q…米軍人は1994年、核施設に「外科手術的攻撃」を加えるのにも慎重でした。今回やれば北朝鮮は自暴自棄になり核ミサイルも発射しかねない。移動式のミサイルの位置を精密に掴むことは人工衛星でも困難。総てをほぼ同時に壊すのは無理でしょう。ソウルから40km程の停戦ラインの北側に築かれた地下陣地からロケット砲などを撃ち込まれれば、ソウルは火の海になるが、地下に隠れている物の位置は分かりにくい。北が威嚇に応じず、大統領や取り巻きが、何かせねばと焦って攻撃を主張しても軍は応じますかね。

田岡…米国の軍人は今回も慎重だと思うが、大統領や政府が「やれ」と言えば従うしかありません。前号でも少し述べたが、2003年イラク戦争の開戦前、米陸軍参謀総長のエリック・シンセキ大將(日系人)は、「イラク攻撃するなら数十万人の兵力を数年間駐屯させる必要があります」と米上院で答弁し、楽観的な主戦

論者のラムスフェルド国防長官やブッシュ大統領(息子)らの怒りを買ひ、早期退役になりました。だがその後任を国防長官が指名しようとしても、他の將軍達は次々と口実を構えて断り、米陸軍はイラク戦争の初期の約3カ月、トップ不在で戦う珍事態になった。これは無理な戦争を強いるネオコン政治家に対する將軍達のせめてもの抵抗だったでしょう。結果はシンセキ大將の見通しどおりになり、米国は極度の財政危機に陥りました。

ソ連が1979年にイスラム教徒のゲリラ活動を抑えようとして、アフガニスタンに介入した際にも、ソ連軍参謀総長のオガルコフ元帥がその危険を説いて軍官僚出身のウスチノフ国防相と激論になった。ブレジネフ首相が言葉巧みに仲裁して出兵させたことがソ連崩壊後明らかになっています。アフガニスタンでの敗退はソ連の威信を失わせ、東欧諸国の離反とソ連自体の崩壊の直接原因になりました。

政治家や外交官らの方が武力行使に積極的で、軍人、特に優秀な將校の方が慎重だった例は他にもいくつかあり、「シビアン・コントロールで好

初公開された北朝鮮のICBM?移動式ミサイルの破壊は極めて難しい



戦的な軍人を制御する」という観念は常に正しいわけではありません。

一方、視野の狭い軍人が組織の勢力拡大や昇進、予算獲得などを狙って結局国を戦争に引き込む結果になることもあるから、軍人に総てを任せるのも危険です。

他国との対立を煽り、強硬論で大衆の支持を得ようとするような政治家よりも、穏健な政治家を国民が選び、軍の要職には視野の広い人

だが米国は「キューバへの侵攻はしない」と約束し、また1960年からトルコに配備していた中距離ミサイル「ジュピター」を僅か5年後の1965年に撤去した。「裏交渉ではこれが交換条件だった」とも言われます。だが、当時米国では弾道ミサイル「ポラリス」搭載の原潜が続々就役しつつあり「ジュピター」のトルコ配備はほぼ不要になっていた。この事件が落着いたのは威嚇と同時に、米ソ双方の巧みな駆け引きの結果でした。

今回の米朝威嚇合戦は、ケネディ対フルシチョフのような合理的な大物同士での対決ではなく、トランプ氏対金正恩氏だから同じことがやれる



